

WAP Cube 活動報告

和歌山 ASEAN プロジェクト (WAP) インドネシア教育支援プロジェクト (Cube)

一第5回 インドネシア バンタル・グバン地区学校支援活動報告 (2015年8月)

Cube 副代表 小原 里穂 (観光3回生)

私たちはインドネシアブカシ市にあるゴミ集積地域バンタル・グバン地区で、子供の夢の選択肢を増やすことを活動理念として教育支援を行っている。

同地域では、住民登録証 (KTP) を取得する経済的な余裕がないため、住民登録証を所有せず、公教育を受けられない子どもたちが多く、そのような子供たちに教育機会を与えようと現地有志が立ちあがり、設立した教育施設がアルファラー学校である。私たちは、この教育施設を活動拠点とし、「学校が変われば、地域が変わる」という考えのもと、子供、先生、保護者の三者にアプローチを行っている。



※アルファラー学校「PKBM Al Fallah」

【第5回活動スケジュール】 期間：8月26日 (水) ～30日 (日)

	午前	午後
8月26日 (水)	ダルマ・プルサダ大学とのミーティング	
8月27日 (木)	フォトコンテスト企画	
8月28日 (金)	菜園調査企画	家庭訪問
8月29日 (土)	ジルバブアレンジ&アクセサリー作り企画	
8月30日 (日)	ダルマ・プルサダ大学とのフィードバックミーティング	

【第5回活動参加者】

和歌山大学：8名 (院生1名含む)、和歌山県立医科大学：1名、愛媛大学：1名 合計9名
(オブザーバーとして、藤山一郎和歌山大学准教授、ダニア・サクティ UGM 院生が参加)

【8月26日 (水)：ダルマ・プルサダ大学とのミーティング】

ダルマ・プルサダ大学の日本語学科の学生は、私たちの活動の際の通訳者としてだけでなく、企画実施者としての大切なパートナーである。今回は、ダルマ・プルサダ大学からは12名の学生が活動に参加した。ミーティングでは、翌日から行われる各企画の流れの確認を行った。



※ダルマ・プルサダ大学でのミーティング

【8月27日(木)：フォトコンテスト企画】

内容：子供たちが「好きな人」「好きな場所」「好きなもの」「学校の周りの好きなところ」「家や家の周りの好きなところ」のテーマに分かれて撮影し、最後に写真コンテストを実施した。

対象：小学校5・6年生 20人

子供たちのカメラに対する関心は高く、積極的に撮影を行っていた。また、私たちは写真を通して子供たちは何が好きなのか、関心を持っているのか知ることができた。子供の中には、「ごみ山」を撮影した子供は、「ここは、両親が一生懸命働く場所。もっとこの場所がよくなってほしい」と述べている子供もいた。この企画を通して、それぞれの子供たちの意見も引き出すことが出来たと思う。その他にも田んぼや花、木、遊具、それぞれ、個性豊かな写真がたくさんあった。



※左：撮影方法を教えるメンバー、中央：子供たちの撮影の様子、右：子供の撮影した写真

【8月28日(金)：菜園調査企画／家庭訪問】

菜園調査企画

内容：過去3回の菜園企画を通じて、植物の種子提供と栽培方法の技術移転を試みたが、目に見えるほどの成育や収穫がなかった。その原因と今後の方向性について、学校側関係者と意見交換を行った。

対象：校長、菜園担当の教師、その他の教師、用務員、計4人

話し合いの結果、教師らは、前回の活動(2015年3月)から半年の間に、収穫できなかった時の原因を自ら考え、新しい菜園を考えていた。私たちの過去3回の菜園では収穫まで至らなかったケースもあったが、教師にCubeの活動が、教師の「菜園」に対する興味、関心を促進させるきっかけになっていたことは確かだった。話し合いの結果を踏まえ、私たちは今後、「菜園」の教育面でのアプローチを実施していく方向を考察することができた。



家庭訪問

3軒の家を訪問し、学校の活動だけでは見ることができない地域の現状を調査した。



【8月29日（土）：ジルバブ・アレンジ&アクセサリー作り企画】

内容：保護者や先生との交流

対象：保護者（女性）8人、先生（女性）2人

ジルバブは、イスラム教徒の女が髪や顔を覆うためのスカーフであり、最近ではそれをアレンジすることが流行となっている。

女性にとって「オシャレ」や「キレイ」を求める気持ちは、万国共通であり、参加者は積極的にジルバブ・アレンジやアクセサリー作りに取り組んでいた。最後のファッションショーでは、参加者も学生も一緒に盛り上がり、一体感のある企画になった。



【最後に】

最終日には、3日間の現地活動を通してのフィードバックをダルマ・プルサダ大学側と合同で行った。今回の成果として、フォトコンテスト企画では、子どもたちの興味関心を引き出すことができた。また、菜園企画では、今後の方向性を主体者である教師と意見交換をすることができた。

課題として一番重要な点は、アルファラー学校の教育の主体者である、「教師」と協働でプロジェクトを進めていくことが大切である点である。今回の成果と課題を踏まえ、次回渡航（3月）のプロジェクトを考えていきたい。

国内、現地での活動にあたって、常日頃からたくさんの方々を支えられ、第5回の渡航を無事終えることが出来たことを、心から感謝申し上げたい。これからも、WAP-Cubeは、更なる発展に向けて、そして持続性のある活動の実施のため、精進していきたい。